

大野城市公共サービスDOCK事業（第1回）会議録

- 日 時 平成19年11月20日(火) 午前10時～
- 場 所 大野城市役所本館4階全員協議会室
- 出席者 委員：6名 明石委員長、佐々木副委員長、岩永委員、斧田委員、
中田委員、松本委員
事務局：9名 藤田企画政策部長、見城自治経営推進課長、毛利企画調整
係長、堀行政経営係長、三池IT政策係長、原、原田、山崎、橋元

1. 開 会

○堀行政経営係長（司会進行）

- ・ 開会宣言
- ・ 原委員欠席の周知
- ・ 配布資料確認→①次第、②大野城市公共サービス改革委員会設置要綱、③レジュメ「大野城市の取組状況と現状について」、④新聞報道の記事、⑤パンフ「平成19年度大野城市当初予算ダイジェスト」

2. 辞令交付

- ・ 井本宗司市長より各委員へ辞令交付

3. 市長あいさつ

○井本宗司市長

- ・ それでは、一言ごあいさつ申し上げます。本日は、お忙しい中をお集まり頂き、有難うございます。また、平素より、本市の行政運営に、深いご理解と、ご尽力を賜っておりますことに対しまして、心から感謝申し上げます
- ・ ただいま、委員の皆様へ委嘱状を交付させて頂きました。任期は3年ということで、かなり長い期間お願いすることになります。何かとご苦勞をかけるのではないかとありますが、よろしく願いいたします。
- ・ 本日も、北海道の深川市議会が子育て支援の視察で来訪される等、全国の自治体から、多数行政視察において頂いております。大変有難いことだと感じています。
- ・ 今回、大野城市が地方自治法施行60周年記念による総務大臣表彰を受賞いたしました。また、先般は、緑の都市賞による総理大臣表彰、昨年は、トラスト協会が環境大臣表彰を受賞する等、職員の大変励みになっています。
- ・ 私が市長に就任して3年目となりました。現在、マニフェストに掲げているテーマの実現に向け、職員と一丸となって努力しているところです。
- ・ 中でも、市民の皆様へ満足して頂ける、質の高い公共サービスの提供と、効率的な

行政経営は、重要なテーマと考えており、その中核を担うものが、市役所の「ヒト（人材）・カネ（財政）・モノ（サービス）」を、行政だけではなく、委員の皆様と検証する、「公共サービスDOCK事業」であると、位置づけております。

- ・ 「公共サービスDOCK事業」では、平成 15 年度より取り組んでおります、フルコスト計算書診断による「財務の視点」に加え、「業務プロセスの視点」、「市民満足度の視点」、「人材の育成と活用の視点」から、公共サービスの多面的な検証に取り組み、質の高いアウトソーシングの推進と、市が実施すべき業務、及び、市が取り組むべき新たな公共サービスに対しての、行政資源の集中化に努め、市民満足度を高める公共サービスを提供する環境づくりを、強力に推し進めてまいりたいと考えております。
- ・ 現在は、サービスの質の競争の時代に突入しており、良質なサービスを提供できることが、自治体間競争を生き残る唯一の方法であると考えています。
- ・ 大野城市については、現在は、財政的にトップレベルの数値であります。道路、施設整備等の先行投資による起債の返還により、数値が年々悪化していくであろうことは、庁内の職員には周知の事実であります。
- ・ よって、今まで蓄積してきた基金や、既にあるサービス、人材をいかにいかしていくか、職員の力をいかに引き出していくかが重要になると考えています。
- ・ 大野城市は、外部委託は進んでおりますが、それによりサービスの質が低下しては何にもなりません。サービスの担い手を委員の皆様に検討して頂くことで、サービスの質の向上に繋げていきたいと考えています。
- ・ また、市民との協働の観点から、市と市民との役割分担がどうあるべきか。市が主体となって積極的に行っていかなければならないことはなにか。事業の仕分けを行いつつ考えていかねばならないと思っております。
- ・ 先般新聞報道等で、市の取り組みについて、お褒めを頂いたり、警鐘を鳴らして頂いたりしております。
- ・ 今後さらに、市民の期待と信頼に応えるべく、職員と一丸となって、行政運営に取り組んでいきますので、皆様のご支援と、ご協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

4. 自己紹介及び委員長、副委員長選出

（事務局紹介）

○藤田企画政策部長より順に自己紹介

（委員自己紹介）

○明石委員

- ・ 熊本県立大学の明石です。大学では、パブリックマネジメントについての講義をおこなっております。学術的な分類としては行政学ですが、内容は経営学に近いもの

になります。先程、井本市長の方からお話がありました様に、これから自治体も競争の時代に入っており、いかに住民の満足度を高めるサービスを提供していくかが課題となっております。これに対し、大野城市では、先進的な取り組みをおこなっていると伺っておりますので、私自身勉強をさせて頂き、今後の研究並びに教育にいかしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○斧田委員

- ・ 福岡市で公認会計士事務所を経営しております斧田と申します。主に北部九州を中心に活動しております。縁あって今年度のフルコスト計算書診断の業務に携わらせて頂きました。少しでも大野城市のお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○中田委員

- ・ 大野城市内で株式会社丹創社を経営しております中田と申します。職業分類としましては、サービス業となっておりますが、内容としましては、商業施設、文化施設等の内装のプランニング、工事等をおこなっております。主な仕事としましては、九州国立博物館の常設展示場の内装を請負ました。
- ・ 現在の会社を興して 35 年になりますが、今までに、父の会社の倒産、現在の会社の創業、M&A等、色々な経験をしてまいりました。
- ・ 私のビジネスのやり方としましては、時代のスピードに対応するため、人材の育成等と並行して、欲しいものは外部から調達するというスタイルでおこなってまいりました。よって、公共サービスDOCK事業の考え方に類似する部分があると思っております。
- ・ 今回、委員就任の依頼がございましたので、自分自身の勉強になると思い、お受けさせて頂きました。また、少しでもお役に立てればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○岩永委員

- ・ アールブレイン代表の岩永と申します。自宅に事務所を構えまして、ホームページの製作やインターネットショップの開設支援等をおこなっております。委員就任の依頼を頂いた時は、正直驚きましたが、自分自身の勉強になると思い、微力ではありますが、お受けさせて頂きました。どうかよろしくお願いいたします。

○佐々木委員

- ・ 株式会社富士通総研の佐々木と申します。主に地方公共団体の行政経営、行政改革のコンサルティングをおこなっております。今回、縁あって、公共サービスDOCK事業のコンサルティングのリーダーを勤めさせて頂いております。精一杯頑張りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○松本委員

- ・ 松本と申します。よろしくお願いいたします。今年 2 月まで東芝で勤務しておりました。

現在は、福岡市で介護関係の仕事をしております。大野城市には、平成6年より住んでおり、今回は、市の広報の委員募集を拝見して応募いたしました。東芝時代には、特許情報の管理、長期計画の策定、国の機関や地方公共団体への営業等をおこなってまいりました。どうかよろしく願いいたします。

(委員長、副委員長選出)

○堀行政経営係長

- ・ 次に、「大野城市公共サービス改革委員会設置要綱」に基づき、委員長、副委員長を選出させて頂きたいと思っております。要綱の規定では、互選となっておりますが、もしご異存がなければ、事務局より提案させて頂きたいと思っております。よろしいでしょうか？ご異存がないようですので、事務局より提案させて頂きます。

○藤田企画政策部長

- ・ それでは、委員長に明石委員、副委員長に佐々木委員をお願いしたいと思います。

(委員一同拍手)

○堀行政経営係長

- ・ 有難うございます。ではここで、明石委員長より、一言ごあいさつ頂きたいと思っております。明石委員長よろしく願いいたします。

○明石委員長

- ・ 委員長にご推挙頂き有難うございます。現在は、パブリックマネジメントが大学の科目になる時代になっております。
- ・ パブリックとビジネスは違うものと思われがちですが、私は常々、学生に対し、パブリックとビジネスは一体のものであり、考え方に置いても、手法に置いても、柔軟に取り入れていかなければならないと教えております。
- ・ 先程の自己紹介で申し上げたとおり、今や、自治体間も競争の時代に突入しております。基礎自治体が生き残るためには、市民に良質なサービスを提供し、人を引き付ける魅力あるまちづくりができるかという点に、かかっていると思っております。
- ・ このような状況の中で、公共サービス改革委員会を立ち上げ、各界の有識者の意見を取り入れて、行財政改革に反映させていくというマネジメントサイクルは、大変大事なことであると思っております。
- ・ それぞれ各界の代表であります委員の皆様のご貴重なご意見を賜りながら、大野城市の行財政改革にいかして行くことができると考えておりますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

5. 市の取組状況についての概要説明

○見城自治経営推進課長

- ・ では、私の方から大野城市の概要について、特に財政面につきましてご説明申し上げます。

- ・ 大野城市はご存知のとおり、福岡市に南接しており、J R、国道 3 号線、九州自動車道が縦貫している交通の要衝となっております。
- ・ 大野城市の概要を簡単に申し上げますと、人口 9 万 4 千人、市域面積 26.88 km²、職員数 451 人、一般会計 292 億円、特別会計 180 億円、企業会計 74 億円、基金残高 166 億円となっております。
- ・ 次に大野城市の人口の推移について申し上げます。大野城市は、以前農村地帯でありましたが、昭和 40 年代以降の宅地開発により人口が伸びてまいりました。
- ・ 大野城市の人口は、現在 9 万 4 千人ほどで、今後も緩やかに増加していくと考えております。また、大野城市の特徴としましては、年間 1.5 万人が入れ替わる、人口流動が激しい地域となっております。
- ・ 大野城市の 65 歳以上の高齢化人口は 14.6%で、全国平均の 21.5%を比較して、まだまだ若い都市であると言えます。
- ・ この内容を見ますと、世の中の流れは、高齢者対策となっておりますが、大野城市の場合は、子育て世代への対応が必要であるということがご理解頂けると思います。
- ・ 大野城市の予算状況について、ご説明いたします。大野城市の一般会計予算は、平成 17 年度の 321 億円をピークに減少しております。これは、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業に伴う関連整備のピークが過ぎ、普通建設事業費が減少していることが要因となっております。
- ・ 国民健康保険特別会計については、対前年度比 12.0%と高い伸びとなっております。なお、この数字につきましては、全国一高い福岡県の中でも、上位に位置するものであります。この要因としましては、筑紫地区に医療施設、特に高齢者対応の医療施設が充実しており、その結果、1 人当たりの医療費を押し上げていることにあると思います。
- ・ 水道事業会計につきましては、筑紫地区が水事情の悪いところであることから、投資費用がかさんでおります。よって、現状のままでいきますと、平成 24 年度には赤字に転じる可能性があります。
- ・ 下水道会計につきましても、投資費用がかさんでいるため、現在は苦しい状態ではありますが、普及率がほぼ 100%となっており、今後は安定的な運用にシフトしていくことになることから、将来的な展望としては明るいと考えております。
- ・ 義務的経費について、ご説明いたします。人件費は 37 億円ほどとなっており、概ねこの位の金額で推移しております。将来的な展望としましては、団塊の職員が大量退職していくことから、義務的経費における割合は減少していくと思われれます。
- ・ これに対し、扶助費につきましては、児童手当の拡大及び援護費の伸び等により年々増加傾向にあります。
- ・ 公債費につきましては、都市基盤整備がほぼ終了していることから、計画的に返済していくことが重要となっております。

- ・市の概要の説明につきましては以上になります。次に、大野城市公共サービスDOCK事業につきまして、担当の橋元よりご説明申し上げます。

6. 大野城市公共サービスDOCK事業の概要説明

○橋元行政経営担当

- ・ それではご説明いたします。最初に、大野城市が今まで取り組んでまいりました大野城市の行政評価、フルコスト計算書診断についてご説明いたします。
- ・ 大野城市につきましても、他自治体と同様、バブル期以降は、歳入が伸び悩んでおります。それに対し、人口増などの要因により住民ニーズは多様化してきております。
- ・ このような背景から、大野城市では、従来の単価査定方式に代わり、経常事業の予算を各課に配分するマネジメント（枠配分）方式を導入しております。
- ・ フルコスト計算書診断は、質の高い行政サービスの提供と、限られた行政資源の適正配分、市民参加型行政の推進を目的に導入しております。
- ・ フルコスト計算書診断の取組効果につきましては、平成15年度から今年度までに、ランニングコストで10億2千万円の削減をおこなっております。
- ・ 次に、大野城市公共サービスDOCK事業について、ご説明いたします。まず、行政サービスと公共サービスの関係について、図をご覧に入れながら説明したいと思います。
- ・ 以前の公共サービスは、専ら行政が提供するものであり、行政と公共の領域はほぼ一致するものでありました。
- ・ しかしながら、少子高齢化の進展、高齢者社会の到来等により、公共サービスの範囲が拡大し、行政と公共の領域にズレが発生しつつあります。
- ・ この新しい公共空間と言うべき行政と公共の領域のズレは、サービスの受益者の視点から、誰が、どういったサービスを提供するべきかを検討し、行政、民間、住民等による多元的なアクターとの協働により対応していかなければなりません。
- ・ このような課題に対応するため、従来の財務の視点からによるフルコスト計算書診断に加え、市民満足度の視点、業務プロセスの視点、人材育成と活用の視点といった、多面的な第三者評価をおこなう大野城市公共サービスDOCK事業を、今回立ち上げております。
- ・ この財務の視点、市民満足度の視点、業務プロセスの視点、人材育成と活用の視点といった、多様な視点から評価し、経営の最適化に繋げるという考え方は、民間企業で導入されている「バランス・スコア・カード」をモデルにしております。
- ・ しかしながら、行政経営の最適化を考える上で、すべて民間の手法を引用すべきではないと考えております。
- ・ 例えば、バランス・スコア・カードの4つの視点ですが、民間企業は、利益を株主

に還元することが、社会的な存在価値になることから、財務の視点が最重要視されるものとなります。

- ・ これに対し、行政の存在価値は、市民に満足して頂ける永続的な公共サービスの提供になります。よって、市民満足度の視点を最重要視した評価を行なっていかなければならないと考えております。
- ・ 大野城市では、公共サービス改革委員会、市民満足度調査、窓口満足度調査等、様々な取り組みを行いながら、行政課題を検証し、これまで財政的な視点だけでは得られなかった市民満足度の向上を目指したいと思っております。
- ・ 公共サービス改革委員の皆様におかれましては、学識、財務、企業経営、市民それぞれの立場から、忌憚のないご意見を頂きますよう、よろしくお願い致します。

○堀行政経営係長

- ・ 以上で事務局からの説明が終了いたします。ご意見等がございましたら、挙手をされてお願いします。

○見城自治経営推進課長

- ・ いきなり、資料を配布、説明となりまして申し訳ありません。本日は、概要ということで事務局より説明させて頂きました。現在、富士通総研と共に制度設計をおこなっているところです。次回の公共サービス改革委員会では、具体的な内容につきまして、お話しさせて頂きたいと思っております。よろしくお願い致します。

7. 事務連絡

○堀行政経営係長

- ・ では、次に事務局より、スケジュール等の事務連絡をいたします。

○橋元行政経営担当

- ・ それでは、2点、事務連絡させて頂きます。まず1点目、次回の開催につきましては、来年2月を予定しております。なお、資料につきましても10日前には郵送等でお手元に届くようにしたいと考えております。
- ・ 2点目は、次回からの運営についてです。今回は、市及び公共サービスDOCK事業の概要説明でしたので、事務局でさせて頂きましたが、次回以降につきましては、委員長、副委員長に加わって頂き、委員会形式でおこないたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

○松本委員

- ・ 次回公共サービス改革委員会の日程の確定はいつごろになるのですか。

○橋元行政経営担当

- ・ 12月早々に、委員の皆様の日程の調整をさせて頂き、少なくとも開催1月前には確定させて頂きたいと思っております。

○松本委員

- ・ 開催時間はどれ位ですが。
- 橋元行政経営担当
 - ・ 今回同様、2時間程度と考えております。
- 中田委員
 - ・ 午前午後、どちらになりますか。
- 橋元行政経営担当
 - ・ 午前午後どちらに開催するかは決めておりません。先程も申し上げたように、日程調整をおこないまして、委員の皆様のご都合が良い日程、時間に設定したいと考えております。
- 見城自治経営推進課長
 - ・ 委員の皆様お忙しい方ばかりなので、皆様にご出席頂けるよう、できる限り調整させて頂きたいと思っております。

8. 閉 会

- 堀行政経営係長
 - ・ 本日の予定はこれで終了いたしました。最後に事務局を代表し、藤田企画政策部長よりお礼のことばを申し上げます。
- 藤田企画政策部長
 - ・ 本日は、最初の公共サービス改革委員会ということで、事務局より概要をご説明させていただきました。市長も申し上げたように、任期は3年ということで、色々ご苦勞をかけることと思っておりますが、本市の公共サービスに対して、率直なご意見を頂ければと考えております。どうかよろしく願いいたします。